



水(川・海)の事故に気を付けてください

国土交通省、農林水産省から、川・海での事故防止を呼び掛けるパンフレットが届きました。ここ最近、ゲリラ豪雨的な雨が降ってもあります。**※命に関わる重要なことがまとめられています。ご一読いただき、お子さんと命を守る行動について話し合っていたいただきたい**と思います。



最近の雨は一気に降ることが多く、用水路や川の水かさが一気に増えます。とても危険です。

用排水路の危険性

ゲリラ豪雨などが発生すると、一気に水路の水位が増水し危険なため、用排水路などへ近づいたり、遊ばないように注意してください。



子どもから離れない

子どもは大人に比べ危険に対する判断ができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがありますので、保護者の方は、常に子どもから離れないようにしましょう。また、万が一に備えライフジャケットを着用させましょう。

水辺に子どものみでいるのを見かけたら、大人が注意するようにしましょう。

波打ち際でも、子どもが波にさらわれ沖に流される事故が発生しています。海に入っていないだけでも油断は禁物です。



子どもだけで川や海に行くことのないように声掛けをお願いします。

また、お子さんと一緒に川や海に行った場合は、お子さんから目を離さないようにお願いします。

ライフジャケットの着用も呼び掛けられています。

事故事例の紹介

遊泳中に沖に流された事故

中学生が沖に向け遊泳していたところ、潮に流され戻れなくなりましたが、運よく付近の岩場に漂着し、通りかかったゴムボートに救助されました。



浮き具で遊んでいたら

沖に流された事故

小学生の姉弟が波打ち際で大型浮き具に乗っていたところ、風の影響で沖に流されました。父親が助けようとするも追いつかず、その後、ボートにより救助されました。



保護者が目を離したときに

溺れた事故

家族でスノーケリングをしていたところ、親が目を離した際に、小学生の子どもが海面を叩きながら溺れていました。父の救助が間に合い、病院に搬送されましたが、1週間の療養となりました。



昨年度の学校便りでも書きましたが、私（加地）も、寒川海水浴場で、親の見ているわずか数メートル先で、子どもが溺れているのを私の友人が気付き、助けたことができました。左の例のように、「海面を叩いている」のを、親は、泳いでいるかと思っていたようです。

消防署の方に聞くと、「静かに沈む」こともあり、その方が気付きにくく怖いとも話されていました。

お子さんの様子の把握をお願いします。

「事故0」で楽しい夏休みに！

私も川や海で遊んだことがあり、楽しい思い出がたくさんあります。別子小学校で勤務していた時には、魚つかみ大会という行事で、銅山川に潜り、アメゴやマスを捕まえました。海では、筏を作り、筏に乗って遊んだこともいい思い出です。しかし、振り返ってみると、川では、流れの急な場所で足を取られたり、苔で滑ったりしたこともあり、海では、泳いでいるときに海水を飲んでむせ返ったりした経験もあります。安全には十分に気を付け、油断せず、いろいろな遊びを楽しんでほしいと思います。

※再度の確認をお願いします 「いかのおすし」

6月から不審者情報が続き、不安な思いの保護者の方も多いと思います。再度、「いかのおすし」について、お子さんと話してください。

「ついて**い**かない。車に**の**らない。**お**おごえを出す。**す**ぐにげる。**し**らせる。」

実際、そのような場面では怖くて声が出ないこともあるかとも思います。そのような場合は、**とにかく「にげる」**。そのことをお話してください。逃げるのに家が遠い場合は、「**どこの家でもかまわないから家の敷地に入り、大人に知らせる**。地域の人には守ってくれる。」と話していただけたらと思います。